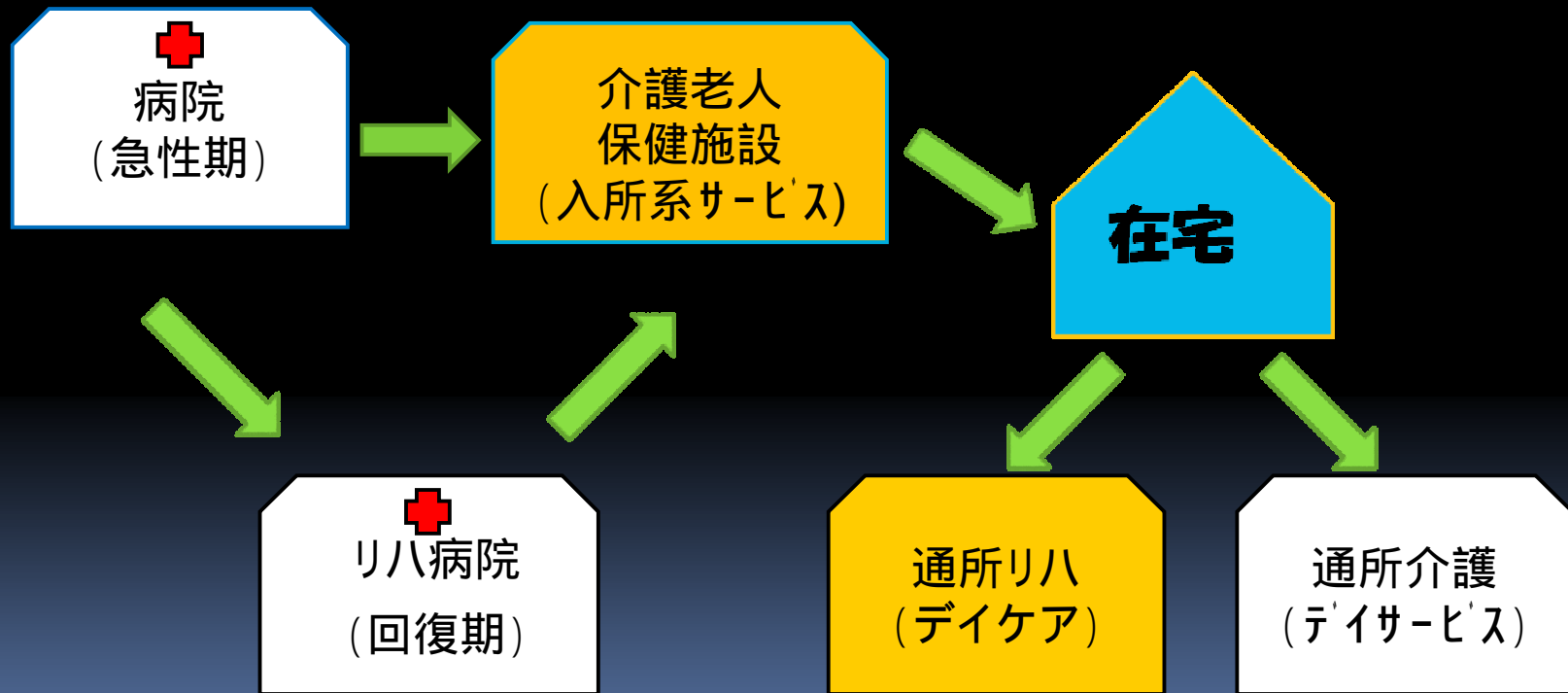


アップル学園前における リハビリテーション

医療法人 北寿会
介護老人保健施設アップル学園前
診療部 理学療法士 櫻井 公統

平成20年11月16日

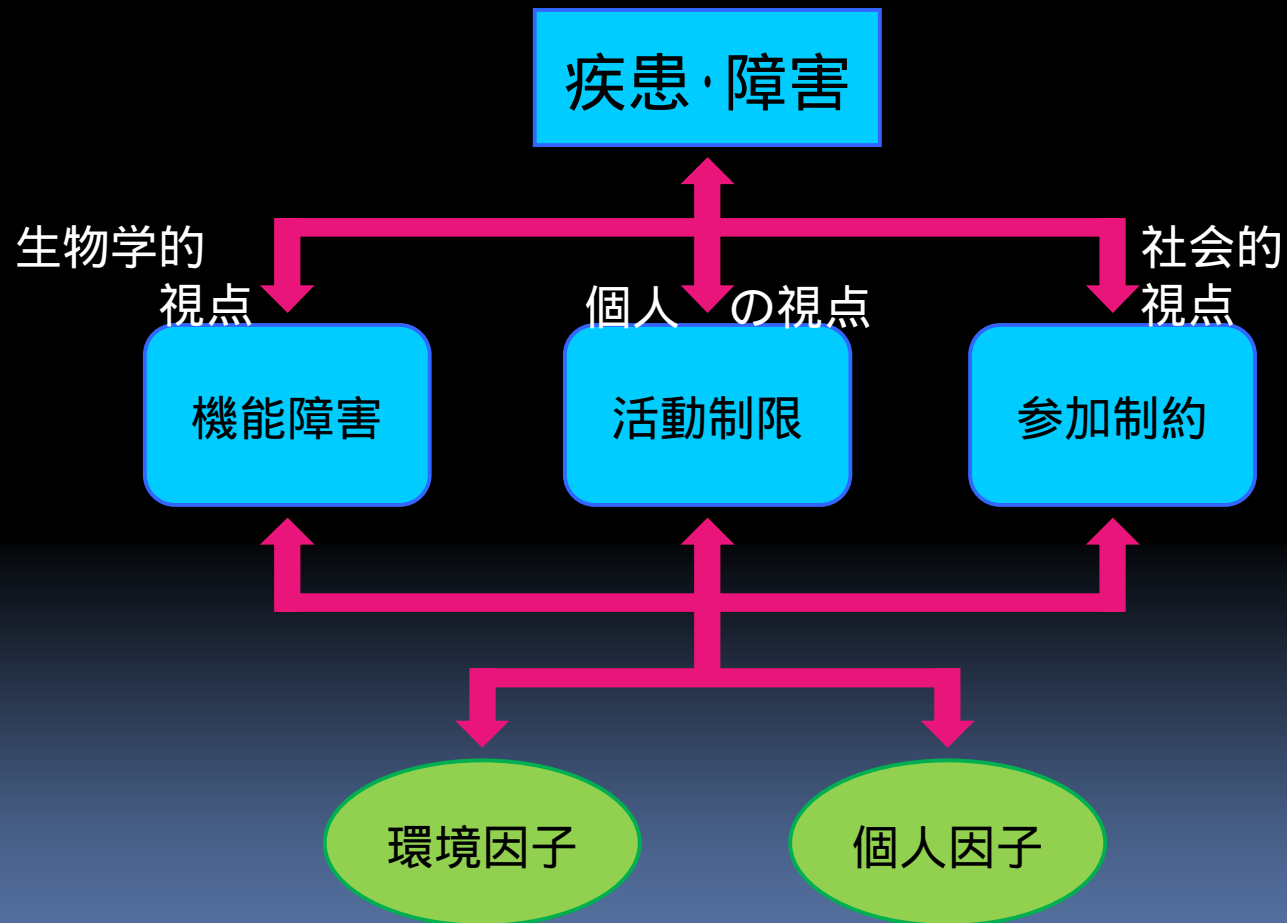
介護老人保健施設を利用するまでの流れ



老健でのリハビリテーションの目的

- 『いかにご利用者に在宅復帰して、かつ、自立した在宅生活を維持して頂くか。』
- 病院のリハビリの様な単なる「身体機能回復訓練」ではない。
- 「生活機能」...特に実用的な「日常生活動」の向上の為にを行う。
- 「受け身」のリハビリから、
「能動的」で「挑戦的」なりハビリに。

ICF マイナス面で見ると...



物的環境とは・・・

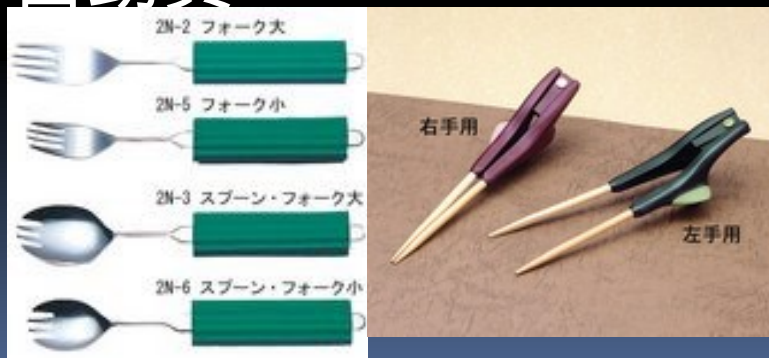
- 装具



- 歩行補助具



- 自助具



- 住宅改修



等等・・・

老化と廃用 老化とは

- 出生し、発育期、成熟期を経て、やがて各臓器・組織の機能が衰えて最終的に死にいたる。この過程を『加齢』と言う。
- このうち、衰えていく過程を『老化』と言う。
- 老化現象には『生理的老化現象』と『病的老化現象』に分けられる。

老化と廃用 2種類の老化現象

- 『生理的老化』
遺伝子機能・免疫機能・代謝機能の低下など、内的要素に起因。
- 『病的老化』
疾患・創傷・放射線・栄養などの外的要素に起因。

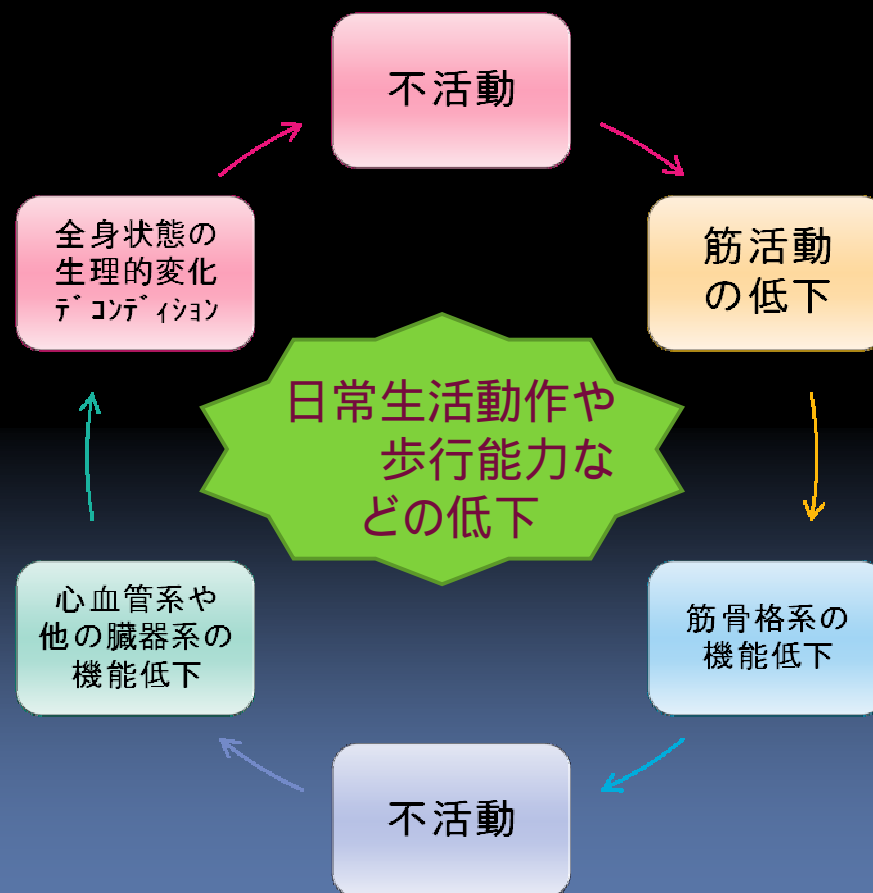
老化と廃用 2種類の老化現象

- 『生理的老化』
遺伝子プログラムによる自然な経緯で、
低下 不可避 機能・代謝機能の
素に起因。

- 『病的老化』
疾患 予防が可能
外的 要因・栄養などの
素に起因。

老化と廃用 廃用性症候群とは

- 廃用性症候群は安静臥床や不活動状態が持続する事で生じる『二次的障害』である。



リハビリによる活動性の向上

- 基礎体力及び活動性の向上と言った、良い循環に変えていくには身体活動の増加や適度な運動により予防や改善が必要となる。
- 日常生活での「活動」を向上させるには、「心身機能」向上訓練ではなく、「活動」自体の練習が遥かに大きな効果を示す。
- 療法士が「できる活動」の向上を図り、それを基に、介護・看護が実生活の「している活動」の向上を図る事で、目標である「する活動」に近づける。

多職種協働による働き掛け

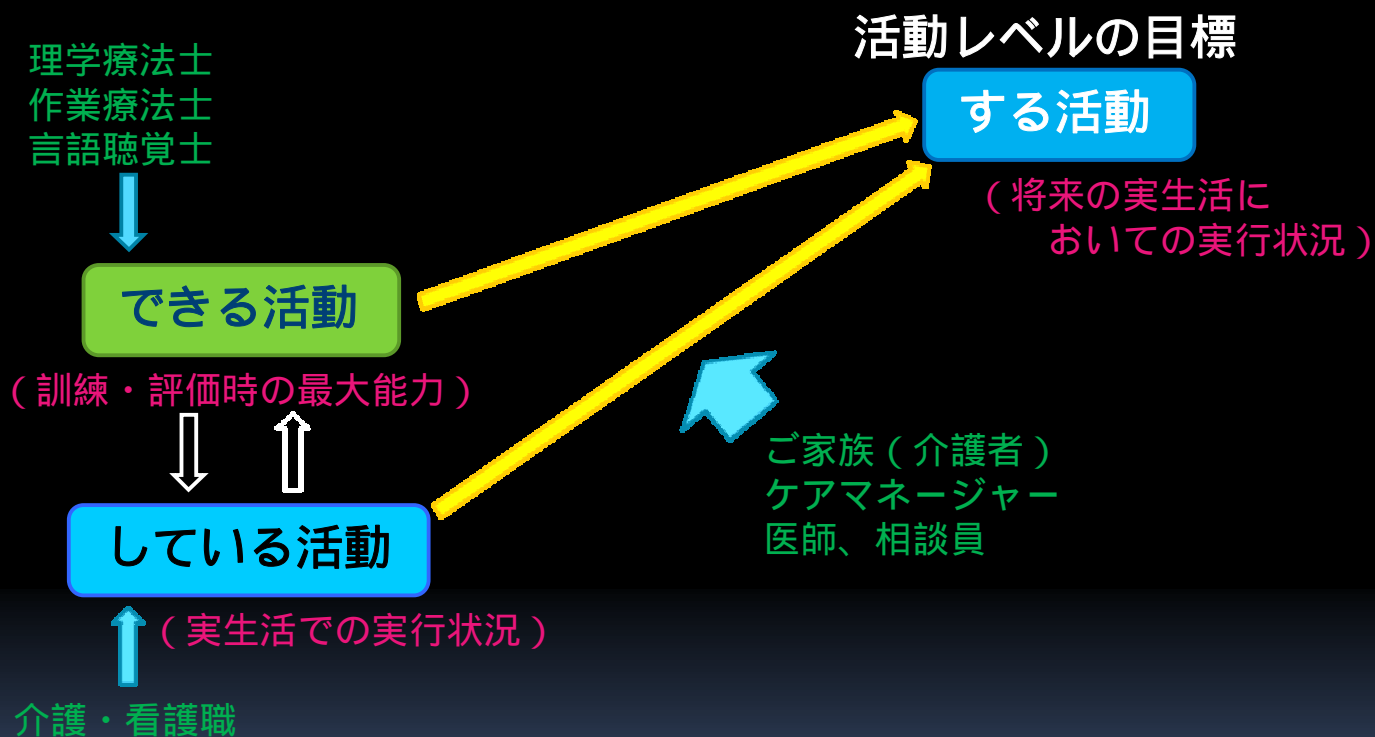
- 療法士が行う個別リハビリ
 - 入所：約20分が週に2回。
 - 通所：1回あたり20分以内。
- 介護の場面にあっても・・・
 - 観察：『何ができるのか？』
 - 挑戦：『より高いレベルでの
動作の実現』

多職種協働による働き掛け

- 療法士が行う作業
入所 通所
こんな短時間で
良くなる筈がない！
週に2回。
20分以内。

- 介護の場面にあ
観察：『リハビリの視点』
挑戦：『リハビリの視点』
の介護が必須！
レベルでの
動作の実現』

多職種協働による働き掛け



リハ職員のみでなく、多職種協働・
家族との連携が重要！！

まとめ

- 在宅生活に復帰し、これを維持して頂く為の『老健のリハビリ』
- ICFの考えを元に、身体機能の向上ではなく、直接的な日常生活動作の練習する『老健のリハビリ』
- 『廃用性症候群』に陥らずに、活動的に過ごして頂く為の『老健のリハビリ』
- 療法士のみではなく、介護職など多職種で行われる『老健のリハビリ』